

第6回 テーマ 「保護者との上手な付き合い方」

- ・期 日 平成23年11月18日(金) 3、4時限
- ・受講者 学生 22人 (4年次21人、大学院生1人)
- ・学部教員 井門正美教授(教職実践演習実施委員会委員長)
石黒純一教授、内海 淳准教授
- ・担当教員 斎藤 孝客員教授、石橋研一客員教授、神居 隆特任教授、

外部講師の紹介

外部講師である元明德小学校長・太田徹氏の紹介等(斎藤客員教授)

講義「保護者との上手な付き合い方」

太田氏が資料をもとに次の内容で講義を行った。

保護者との関わりについて

- ・気を付けたいこと
- ・保護者から相談を求められた場合
- ・保護者から協力を求める場合
信頼関係づくりの基本
気になる保護者への関わり方
教師としての心構え



太田氏は、保護者への「かかわり方のコツ」として、次のような9つの視点を示した。

- ・困った関係になる前に
- ・連絡の段階から始まる
- ・率直に問題を伝える
- ・来校してくれた労を労う
- ・時間は長すぎないように
- ・プラスの情報提供を忘れない
- ・まず保護者の話に耳を傾ける など



また、太田氏は、家庭訪問の方法や家庭訪問時における留意点や心得などについて具体的に示してくれた。

さらに、困った保護者は、実は「困っている保護者」であることを忘れず、「ゆっくり・じっくり・ていねいに」保護者とかかわることの大切さを強調した。

ロールプレイング

次の事例について、3グループに分かれてロールプレイを行った。

事例 保護者から文書による回答を求められたケース

事例 保護者から学校の対応について威圧的な態度で要求されたケース

事例 近隣の住民から「うるさい」という電話があったケース

リフレクションノートから

- ・保護者対応は難しいが、学校の一方的な考えを押しつけるのではなく、相手の気持ちをしっかり汲み取って対応していきたい。
- ・ロールプレイングをしてみて、実際に起こりうることであり、不安が多いということを改めて感じた。4月までに様々なパターンを想定してイメージしておきたい。

- ・親への対応は本当に難しかったが、困っている人に寄り添い、ゆっくり・じっくり話を聞くことが大切であると感じた。
- ・保護者対応はとても不安だったので、ロールプレイングをすることでいい経験になった。相手の主張もしっかり聞いて納得のできる解決策を探していくことが必要であると学んだ。

資料 ロールプレイング

事例1 保護者から文書による回答を求められたケース

母親と担任との面談において、次のような要求があった。
子供が昨年から学級でいじめを受けている。何度も相談しているが、一向に改善する気配がなく、最近、いじめがますますひどくなっている。親として、担任は何も対応していないと思う。いじめを放置していることを認めるとともに、謝罪文を学校通信に掲載することを求める。

- 1 謝罪文を求める保護者の意図は何でしょうか。
- 2 保護者の要求に対する望ましい対応は何でしょうか。
- 3 この事例の解決のポイントは何でしょうか。

事例2 保護者から学校の対応について威圧的な態度で要求されたケース

最近、学校を休みがちになっている子供の父親が突然来校した。
担任に対して、「お前が何かと注意したせいで、うちの子供学校に行けなくなった。うちの子はちゃんとやっている。なんでうちの子だけ注意されなければならないんだ」と大声で荒げた。
さらに、「子供に土下座して謝れ」、「毎朝、家まで迎えに来い」などと威圧的な口調で繰り返し言われた

- 1 保護者は、どんな気持ちで要求しているのでしょうか。
- 2 このような保護者に対する望ましい対応は何でしょうか。

事例3 省略